

令和2年度《学校経営計画》

名張市立北中学校

学校長 山崎 博史

| |
|--|
| 1 学校教育目標 |
| 夢をもち、心豊かで、たくましい生徒の育成 —感動・感謝・そして成長— |

| | |
|-------------------------------------|--|
| 2 めざす学校像、児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像 | |
| ○学校像 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりを大切にす学校 ・安全で安心して学べる学校 ・活力あふれる学校 ・地域に開かれた信頼ある学校 |
| ○児童・生徒像 | <ul style="list-style-type: none"> ・目標をもち、自ら学ぶ生徒 ・自ら考え、自ら行動する生徒 ・人とつながり、学び合う生徒 ・心身ともに健康な生徒 |
| ○教職員像 | <ul style="list-style-type: none"> ・愛情をもち、生徒とともに実践する教師 ・創意工夫をし、生徒の確かな学力をはぐくむ教師 ・生徒・保護者・地域に信頼される教師 |
| ○保護者・地域像 | <ul style="list-style-type: none"> ・つながり合い、学び合う保護者 ・子どもを見守り育てる地域 |

| | |
|--|---|
| 3 学校の現状 | 本年度の改善方策 |
| <p>生徒の学校生活の様子は全体的には落ち着きがあり、学習・部活動をはじめとする諸活動にも熱心に取り組んでいる。R01年度の生徒アンケート結果は、「学校生活が楽しい」と感じている生徒が89.8%であった。また、学校生活の大半を占める授業については「授業に主体的に取り組んでいる」と回答した生徒は92.5%、「ほとんど理解できている」と回答した生徒は88.8%であった。保護者も生徒も「わかりやすい授業」を一番に求めており、より一層の授業改善に力を入れ、生徒の主体的・積極的に学ぶ力の醸成が求められる。また、「あなたは自分の将来に夢や希望をもって学校生活を送っていますか」という項では、82.7%であり、全国学力学習状況調査では、全国平均値より6.5%上回っているが、より一層の取組の推進が求められる。一方で、不登校等、心に悩みを持った生徒、様々な課題のある生徒も増える傾向にあり、未然防止、早期発見・対応が重要であり、関係機関との連携も視野に入れた取組が必要である。自己肯定感・自己有用感の弱さも見られ、自尊感情の醸成と自らの目標を実現するためのキャリア教育の推進が一層必要である。さらには、生徒自らが積極的に進めていく自治活動の活発化を図っていく。また、<u>本年度からのコミュニティ・スクール、小中一貫教育が本格実施されることから、家庭・地域との連携を深め、9年間を子どもの学びや育ちを見通しながら、学校教育を進めていく必要がある。</u></p> | <p>学び合い学習を中心に授業の工夫・改善と教育相談の充実に取り組む。また、学校行事・学級活動等の活性化を通して、豊かな人間関係と居場所づくりをすすめ、集団の質を高める。最終的には自分たちの活動が<u>感動</u>を生み、周りの人に<u>感謝</u>し、そして<u>自己実現</u>を図る取り組みを進めていきたい。また、<u>新しい校区を視野に入れながら、9年間を見通した教育（小中一貫教育）を目指し、小中連携をさらに進め、魅力ある学校づくりを進めたい。</u></p> <p>その基盤となるのは、活力のある教職員集団であり、そのためには、教職員が心身ともに健康に職務を遂行するために<u>過重労働対策を推進していきたい。</u>（月一回以上の定時退校日、時間外労働の削減）</p> <p>以上を踏まえながら、「夢・未来」をはぐくむことをめざして、以下の3点を重点に取組を進めたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わかる授業づくりと学習意欲の向上（<u>学び合い学習の推進、学習規律の定着、一人ひとりが活躍する場の設定、家庭学習習慣の定着、補充学習の充実</u>） 2. 豊かな人間関係と居場所づくり（<u>教育活動全体を通じた、成就感・満足感・自己肯定感・自己有用感を高める創意工夫、人権教育・道徳教育の充実、生徒の自治活動の推進</u>） 3. 生き方を学ぶ教育活動の充実（<u>進路相談・教育相談の充実、職場体験学習、地域と連携した体験学習、小中連携</u>） |

| 4 重点的な取組事項 | | | | | | |
|-------------------|------------------|---------|---|---|---|---|
| 番号 | 内 容 | 実 施 期 間 | | | | |
| | | 30 | 元 | 2 | 3 | 4 |
| 1 | わかる授業づくりと学習意欲の向上 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 豊かな人間関係と居場所づくり | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 生き方を学ぶ教育活動の充実 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

5 令和2年度の重点目標

| | |
|--|--|
| 重点的な取組事項－1 わかる授業づくりと学習意欲の向上 | |
| A 今年度の成果目標 | |
| 「授業内容がほとんど理解できている」「授業に主体的に取り組んでいる」の項目を <u>90%以上</u> にする。 | |
| B 目標実現に向けた取組 | |
| 具体的な方策 | |
| ① | 新学習指導要領を意識し、「学び合い学習」を中心とした授業研究を推進し、研究授業、反省、改善の取組をすすめ、指導力向上と学力向上を目指す。(年間2回の全体研究授業、一人1回の研究授業の実施) |
| ② | 学習規律の徹底と、学びに参加した成就感・満足感を感じることによって、子どもの主体的な学習姿勢(一人ひとりが活躍できる場の設定、発問の工夫など)を校区小学校と連携しながら培う。 |
| ③ | 家庭学習習慣の定着に向け、校区小学校と連携しながら保護者への啓発及び具体的な取組をすすめるとともに、長期休業中や諸活動停止期間を活用して、補充学習を充実する。 |
| 重点的な取組事項－2 豊かな人間関係と居場所づくり | |
| A 今年度の成果目標 | |
| 「あなたは、学校生活が楽しいですか」の項目を <u>90%以上</u> にする。 | |
| B 目標実現に向けた取組 | |
| 具体的な方策 | |
| ① | 「道徳」の新たな実践と共に、「肯定的な振り返りによって生徒相互が認め合う」「教師が褒める、励ます、認める」等の場面設定を意識的に行い、生徒の成就感・満足感を高める。 |
| ② | Q-U調査、教育相談を通して生徒の想いや状況を把握し、生徒の様子についての職員間の情報共有を密にし、組織的なはたらきかけ、生徒同士がつながる声かけの工夫をする。 |
| 重点的な取組事項－3 生き方を学ぶ教育活動の充実 | |
| A 今年度の成果目標 | |
| 「あなたは、自分の将来に夢や希望を持って学校生活を送っていますか」の項目を <u>85%以上</u> にする。 | |
| B 目標実現に向けた取組 | |
| 具体的な方策 | |
| ① | ボランティア活動は、地域のみならず学校内にも目を向け、将来的に地域や社会に参画・貢献する意識を高める。 |
| ② | 面接や面談の機会を工夫し、将来、自己実現が可能となるように、自己表現力を伸ばす取組をすすめる。 |
| ③ | ふるさと学習「なばり学」を意識しながら、職場体験学習及び職業や働くことについての調べや聞き取りの学習等、人と職業との出会いを工夫する。 |
| ④ | 小中一貫の中で、小学生が中学生の様子を参観する機会を設けるなど、グランドデザインをもとに9年間の子どもの学びや育ちを見通した取組を進めていく。 |
| ⑤ | 生徒の自治活動の活発化を図り、教師が率先した姿を生徒に見せながら、生徒会の「5つの目標」のうち、「いじめのない学校」の達成意識(そう思う)を70%以上(R02年度:68.8%)にするための取組を行う。 |

6 学校における働き方改革の推進に向けた取組

| 上限時間に基づく目標 | | |
|------------|---|-------------------|
| 成果指標① | 1人当たりの月平均時間外労働 | 30時間以下(30時間以下の範囲) |
| | 年360時間を超える時間外労働者数 | 0人 (変更不可) |
| | 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 | 0人 (変更不可) |
| 具体的な方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・タイムカードの活用により教職員が自らの在校等時間を把握し、業務を計画的に遂行することにより、勤務時間をセルフコントロールできるようにする。 | |
| 休暇取得促進の目標 | | |
| 成果指標② | 1人当たりの年間休暇取得日数 | 8日以上(各学校で設定) |
| 具体的な方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・休暇が取得しやすい職場の雰囲気づくり、体制づくりを進める。 ・夏季休暇を全員が取得する。 | |
| 学校独自の取組 | | |
| 活動指標 | 設定した日の定時に退校できた職員の割合 | 80%以上 |
| | 予定通り休養日を実施できた部活動の割合 | 90%以上 |
| | 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 | 70%以上 |
| | 放課後に開催して90分以内に終了した会議の割合 | 100% |
| 具体的な方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日を設定し、勤務時間内に業務が終了するよう、計画的に仕事を進める。 ・部活動の活動計画を毎月作成し、部活動ガイドラインに基づき休業日を設定する。 ・会議の在り方を検討し、開催にあたっては事前に議題を整理・精選し、提案文書のペーパーレス化を推進する。 | |